

玉村町の魅力について調査

玉村町の活性化に向け さらなる魅力の発信を

総務経済 常任委員会 Report

委員長 月田 均 委員 柳 沢 浩 一
副委員長 新井 賢次 高橋 茂 樹
久保留 美子
備前島 久仁子

所管事務調査日：令和2年2月18日



活性化プラン発表風景



麦踏み合戦



在京メディア向け現地視察会

企画課魅力発信係の取り組み

魅力発信係は広報紙の発行による情報発信のほか、住民や学生、企業等と協働・連携した各種魅力発信事業を行っている。主な事業は次のとおりである。
・住民協働によるまちづくり推進事業（岩倉水辺の森有効活用プロジェクト等）
・県立女子大生による玉村町活性化プランコンテスト
・麦踏み合戦（麦踏み体験とおつきりこみのイベント）
・JAFドライブスタンプラリー
・ふるさと納税奨励事業

企画課ブランド推進係の取り組み

地域おこし協力隊とともに、町内にある新たな魅力を掘り起こし、様々な媒体を活用し、主に東京圏を中心とした県外に発信することで町の知名度向上に取り組んでいる。魅力素材の発掘、磨き上げ、更に発掘した素材の活用ルートを見出し、玉村町の新たな魅力を発信するとともに、交流人口増加に繋がる事業を実施している。具体的には新聞、雑誌等メディアへの掲載、東京圏発地型パッケージツアー等による誘致などである。

まとめ

町の活性化のため、町の魅力発信はますます重要になってきている。魅力発信の方法として、町ホームページ、メディアの活用、県や他の市町村との連携など実施しているが、効果の高いものに注力することが必要ではないか。
また魅力発信とともに新たな魅力を発見し、つくり出すことも重要である。今後さらに元気な町をつくり出すため、町のイメージをつくり、町を売り出す戦略を立て、魅力発信に積極的に努めることを望む。

古えの玉村町を訪ねて

歴史文化財資源の発掘 古墳時代～戦国期

民生文教 常任委員会 Report

委員長 原 利 幸 委員 渡 辺 俊 彦
副委員長 小林 一 幸 石 内 國 雄
浅 見 武 志
宇 津 木 治 宣

所管事務調査日：令和2年2月10日



古墳発掘（小泉大塚越3号古墳）



東山道駅路（上福島の砂町遺跡）



首塚（高崎市新町）

● 繁栄した古墳時代

約2万4千年前、浅間山噴火による山体崩壊で、緩やかな傾斜をもつ前橋台地が形成された。3世紀に東海地方を中心とした移民が群馬県平野部の開拓に成功し、低地の排水と利水により水田耕作を行った。その後、玉村町周辺は繁栄し、結果として200基を超える古墳がつくられた。軍配山古墳、梨ノ木山古墳は現在も姿を残している。また、小泉古墳群では、多くの埴輪と共に全国的に珍しい単鳳環頭大刀が複数出土している。

● 災害の歴史

玉村町は繰り返し災害に見舞われている。3～4世紀浅間山噴火による軽石、5～6世紀榛名山噴火の影響による洪水、9世紀河川氾濫による洪水、1108年浅間山噴火による降灰・軽石、推定1427年利根川主流の変流による洪水、1783年浅間山噴火等、度重なる災害により長期間繁栄を続けることができず、有力な支配層も育たずにいた。しかし、古代の東山道駅路が置かれたり、角洲が水運で発展したり、交通の要衝であった。

● まとめ

戦国末期には神流川合戦という上州最大の戦いがあった。本能寺の変の直後、北条氏が上州に侵攻した。迎え撃つ織田方の大将が滝川一益、2日程の戦いで滝川氏が敗退した。この際、滝川一益が軍配を振ったのが軍配山古墳と伝えられている。この合戦は玉村町を含む広範囲で展開されており、新町には首実検後に埋葬した首塚、藤岡市には胴体だけを埋葬した胴塚がある。現存するこれら歴史遺産を組み合わせることで、新たな歴史散歩コースとなるだろう。